

埼玉五十の山

天理岳

「アラビヤの猫」の早かた

標高 1,173m

山行実施日

2016年11月20日

日

メンバー

S々木純(L)、I崎、M田、Y城、O知

大宮労山50周年記念事業の一環として挙行された「埼玉五十の山」

も、諸処の理由により今回の「天理岳」が大詰め最終となった。記念式典を二週間後に控え何としても登りきる、との執念と、折しも前週私たちの仲間が天理岳を目指し、負傷により無念の敗退となったこともあって、大変な緊張感に包まれた特別な山行であった。

さて、今回の天理岳は両神山の遥拝所と呼ばれるが如く、山頂からの同山の眺めは格別である。両神山といえは、日本武尊(ヤマトタケル)が東征の際に関東平野から八日間見え続けた山(八日見山)から名付けられ、東征からの帰りに戦勝に感謝する意味で同山を登ったと伝えられる。実は話には続きがあり、翌年日本武尊の父親である景行天皇が両神山に登ろうとして道に迷った時に白いオオカミが出てきてその後につい

れた山であることから「天理岳」と名付けられたと伝えられる。

今回の参加者は、経験豊富な方ばかりで、ほとんど危なげなく5時間ほどで山行を終えた。しかし、よく考えると鎖の着くような結構な岩場もあり、一番経験の浅いO知でもストレスなく登ってこれたのは、大宮労山に入ってから教えてもらった、八丁峠からの両神山、妙義山、二子山、赤岩等々の経験の賜物であり感無量だった。ただ、下山時には明確と思われるテープを頼って降りようとする私に対して、さすが先輩たち、皆で地図読みを丹念に行い、万が一でも道迷いを避けるとの、これまた執念を肌で感じた山行であった。

さて、リーダーをはじめ参加者から一言頂いたので紹介する。
S々木純さん「日高さん。リベンジしました。心おきなく静養下さい」
I崎さん「岩稜帯も多く、急登も多

く、事故もなく楽しく遊べました。埼玉百名山、95座目です。」
M田さん「晩秋の秩父路に、五十の山シリーズのラスト山行である天理岳へ向かい、仲間達五名。パーテイで、無事完登出来ました。岩尾根やガレ場が続く、中々楽しい山旅でした」
Y城さん「記念すべき最後の五十の山と紅葉、青空を堪能しました。」



天理岳山頂から両神山を望む

標高 1,743m



50山完登の感激で下山後、思わず万歳三唱コースタイム

コースタイム

日向大谷発 8:10～櫛尾沢峠 9:00～天理岳
10:40着 11:10発～日向大谷 12:55



山頂にて

2016/11/20